

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年6月11日(金)

その2

## ◇ 35年の時を経て ～写真で見る 本校の歴史～

昭和62年。本校が米河内の地に移転・新築し、35年の年月を重ねた。  
当時の記録写真を引っ張り出し、同じアングルで撮影した現在の景色との比較。



〔左〕 参列者は、開校直後に行われた植樹祭（校内の植樹）の主賓。前列中央の青年は、7期務めた県議会議員、初当選後間もない内田氏(前市長)である。

光の加減もあるが、新築の校舎は真っ白。【白亜の校舎】だ。掲揚ポール下の壁面は、昨年度に再塗装したおかげで当時に近い。フェンスも丈夫だ。  
注目は赤➡の記念碑の「求めて はげむ」。塗装の成果が確認できる。



〔左〕 クロマツの記念植樹に土を盛る当時の中根市長。幹の太さと風合いが年月の経過を物語る。当時の側溝蓋（赤➡）はグレーチング。現在は「詰まり」を起こす引き金となっているコンクリート製。変更の理由は不明である。



青木川に面したフェンス沿いの植樹写真。3本の樹木は立派に生長した。伸ばした枝に生い茂る葉で、川向こうの山林を覆い隠している。

遊具位置を基準にすると、アングルが違うのではないかと考えてしまうが、ほぼ同じ位置である。ブランコは前方に移設して柵を増設し、鉄棒（赤➡）もフェンス近くに移設している。表の写真からは、跳び箱タイヤと雲梯も移設したことが分かる。変化が少ないのは体育倉庫。本当に丈夫だ。イナバ製かも。



最も違いを感じるのが、この2枚の写真。

まずは第2東名の高架の有無だ。もうすっかり慣れた景色になってしまったが、有ると無いとでは、開放感がまるで違う。左の写真の運動場が広く見えるのは、そのためであろう。

常東ランド側の法面最下部の「おき出しコンクリート」は、コケが付着しておらず真っ白だ。その上部は若干の緑。さらにその上は、切り崩した山に植林する前の状態。現在は多くの樹木が生長し、しっかりと張った地中の根が法面を強くしていることだろう。

それにしても人、人、人…。地域住民の願いの高さ、期待の高さがよく分かる。